

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570813519		
法人名	株式会社 えがお		
事業所名	グループホーム杉矢崎		
所在地	大仙市大曲西根字杉矢崎12-6		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会		
所在地	秋田市旭北栄町1-5		
訪問調査日	平成22年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1・ご家族への近況報告 入居者さんの健康状態や、日常生活の様子を、毎月初旬にご家族様に報告している。写真やほほえましい日常の様子を4コマ漫画にし添付している。ご家族様が安心できるよう、なるべく多くのことを報告するようにしている。
2・季節に応じた外出支援 入居者さんの立場に立って、外食、外出先等を考え、できるだけ多く外の空気に触れる機会をつくっている。
3・地域との交流 地域向けの「杉矢崎便り」の発行・小中学生の体験学習の受け入れ・防災訓練への地域の方の参加・等地域との交流を深める活動を行っている。
4・職員研修 職員のスキルアップのため、年間研修計画を立て、社内外研修を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの尊厳ある日常生活の営みと安全な生活を支援するため、地域の理解と協力を得ながら管理者はじめ職員が一丸となってケアに務めている。
職員のスキルアップや資格取得に向けて法人全体で支援し、「教育のおしり」に基づいて目標設定や振り返りに活用しており、充実した研修計画や学習成果の発表の機会をつくることで職員の自信と自覚につなげているほか、幅広く知識を深めるために「読書手当」を支給するなど、職員の学習意欲の向上につながっている。
管理者は、職員の経験や特技を上手に引き出し、絵の上手い職員には手書きのたより等作成、踊りの上手な職員にはレクリエーションの充実、料理上手な職員には調理を担当させるなど適材適所に配置している。
また、事業所独自の「家族アンケート」を実施し、家族の潜在的な意見を引き出し、利用者の生活に反映させようとする姿勢がみられ、離れている家族にも安心感を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念の共有については、新入社員には採用時研修で教育し、全社員には定期的に研修も行いの理念の再確認を行っている。実践については、年度始めのユニット目標設定の際にも理念をベースに設定するように意識的な取り組みをしている。	「地域と共に」という法人共通の理念に基づき、年度始めに事業所の実践目標を定め、地域との交流や計画的な人材育成を今年度の目標としている。 また、目標カードに法人・事業所・職員個人の目標を記載し、職員が常に共有・意識しながら利用者の生活支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に緊急時の連絡先に加っていただいている。 事業所の防災訓練時には地域の方々の参加をいただいている。また訓練終了後には、食事会を開催し交流を深めている。	前回評価結果を受け、行事の際は職員も楽しむよう発想を転換し、事業所の敷地内で焼きそばやフランクフルトを提供するなど、近隣住民の協力を得ながら交流を図っている。 また、近隣の方が周囲の草刈りや畑の手伝いをしてくれ、保育園や小学校行事などに招待されて参加している。 さらに、認知症サポーターとなった地域の方が事業所を訪れるなど、徐々に事業所の理解が深まってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	「認知症なんでも相談所」を開設し、地域で認知症介護で困っている方がいる時は、気軽に相談していただけるようPRに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いは貴重な意見と捉え、全職員にも周知するようにし、サービス向上に活かす努力をしている。	2ヵ月毎に会議を開催し、外部評価結果とその課題について意見を求め、緊急連絡網や防災訓練への住民参加など、具体的な取り組みにつなげている。 また、独自の家族アンケート結果を報告し、会議の結果を職員回覧で共有している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	サービス情報提供と研修情報をあわせた「月間えがお」を毎月配信している。介護保険事務所や福祉事務所などとは連絡がとれている。また地域包括支援センターからもケアプラン点検研修などの連絡のために来訪してくれる。	生活保護受給者がいるため、福祉事務所担当者が定期的に訪れ、地域包括支援センター主催の研修参加などで情報交換しており、スプリングラー設置に向けた助成なども相談している。 また、行政からの委託で「認知症なんでも相談所」としての機能を担い、電話で空き情報などにも応えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会に全職員出席し身体拘束廃止マニュアルの見直しをすると共にマニュアル変更時の読み合わせなどでスタッフに周知している。	管理者が外部の研修を受けて職員にレクチャーし、身体拘束をしないケアについて学び、マニュアル検討会で見直しにつなげている。 また、日中は玄関に鍵をかけず、職員の見守りや声かけを徹底し、近隣住民にも声かけを依頼して自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年虐待防止の研修を全職員が行い、職員の言動や利用者さんの表情や言動からも虐待が行われていないか確認をしている。また業務の簡略化し職員のストレスの緩和を図り事業所内での防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が定期的に学び、意識統一をはかっている。また、権利擁護事業や成年後見制度の利用が必要な方がいないか確認し必要な人には支援ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭のみではなく文書でも十分に説明を行い、不安や疑問については納得いただけるように説明する努力をしている。ご本人に対しては理解力の問題から困惑しないように説明する努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会来訪等に気付いたこと、要望等を遠慮なく言っただけの様「ご意見箱」を玄関先に設置をしている。 ご家族様アンケートを無記名で実施し、潜在的要望、ご意見等の収集・分析・対策を行っている。	面会に訪れる家族が意見や要望を遠慮なく伝えており、食事の内容がわからないとの意見から写真つきの献立にしている。 また、事業所独自に家族アンケートを実施し、タンスのホコリについて指摘を受け、掃除の徹底につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週管理者会議、毎月の主任会議やスタッフカンファレンスなどで意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月職員カンファレンスを開催し、事業計画や年度目標についての意見や提案を求めており、職員の声から就労状況の改善につなげている。 また、法人の「教育のしおり」に基づき、業務外の研修参加を全職員に選択させ、一人ひとりに「読書手当」を支給するなど、資格取得やスキルアップに向けて支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人、個人が向上心を持って取り組みができるよう必要な研修への参加、読書手当での支給などを行っている。また月2回の社内研修設定で学べる環境作りに努めている。 また、半年に一回本人の目標が達成できるようアドバイスをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は教育委員会を組織し、年間計画に基づき毎月勉強会を開催している。また、外部から専門的分野の講師や大学教授等招き勉強会を開催している。外部研修は職員の能力や希望に応じて参加している。また法人内で研究発表会や実践報告会へむけての取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大曲仙北地域のグループホーム連絡会に入会し、同業者との交流や情報交換、勉強会等を行っている。全職員が積極的な関わりをしていけるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用申し込み後にはご本人と面談し、話しやすい雰囲気作りをし、ご家族からの情報と合わせて、望む生活の聴取をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までの間に何度か希望を聞いたり見学の機会を設けて具体的に生活をイメージしていただいたり話し合いを重ね信頼関係を築く持つ努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が、入居者に助けってもらったり教えてもらったり、一緒に過ごしていく中で、共に支えあい、喜怒哀楽を共有するような関係を築けるよう日々取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には行事などの参加の呼びかけや負担にならない程度の関りが継続できるよう外泊・外出・面会・電話などの際に援助を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の意見も聞きながら、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所の関わりを希望される場合は関係が途切れないよう、支援する努力をしている。	家族の意見を参考に、利用者が培ってきた様々な関係を把握し、自宅の近くをドライブしたり、昔の友人が訪ねて来た際には晩御飯を御馳走して共に過ごすなど、それぞれの関係性を断ち切らないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性のよい利用者同士と一緒に過ごせるような環境作りを行い、相互の助け合いの場面を見る事もあるが、常時自然にできているわけではないことから職員が声がけや、見守りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居してからも電話や来訪があり、近況報告を受けたり、介護相談にもものっており、安心して自宅での生活が継続できるように関わりを持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話での聴取や言動を観察、ご家族からの情報収集などで希望、意向の把握に努めている。また、コミュニケーションが難しい方には心身の状態に配慮しながらご家族の意見も交えご本人の意向の把握に努めている。	アセスメントでの情報収集を含め、一人ひとりの思いや希望、生活リズムを詳細に把握しており、天気の良い日は外に出たい、雨や寒い日は出たがらない、というごく自然な思いを尊重している。 また、食事終了後の30分とおやつ時間を大切にしており、職員もゆっくりと座って会話し、利用者の表情の変化などから、潜在的な思いや意向を読み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際本人、家族から出来るだけ詳しく聞き、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録の他にセンター方式の活用で昼夜の様子を把握したり、排泄状況、食事摂取状況等の記録をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とは相談しながら作成している。本人からは日常的に生活する中で、意識的に本人が求めていることを引き出し、その思いを取り入れて職員の意見をふまえて作成している。	アセスメントにセンター方式を取り入れ、利用者及び家族の意向をわかりやすく記載し、サービス担当者会議で意見やアイデアを出し合いながら個別の介護計画を作成している。 また、毎月モニタリングを実施し、通院時の医師の助言なども参考にしながら3か月毎に計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々の様子やケアの実践を記入している。情報を共有するため申し送りノート、連絡ノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園・学校行事にもできるだけ参加しており、消防署からは防災訓練などで定期的に訪問していただいている。民生児童委員の方には運営推進会議にも参加していただき地域の情報を教えていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切にし、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局を利用し適切な医療を受けられるよう支援している。またかかりつけ医の訪問診療の際は薬局の方も一緒にご本人と接しアドバイスをいただいている。	利用者及び家族の意向を尊重し、相談しながら適切な医療が受けられるよう支援しており、協力医による往診や看護資格を持つ管理者と24時間連絡が取れるなど、医療ニーズへの対応体制を確保している。 また、「かかりつけ医師用連絡票」で事前に相談内容や病状をFAXで伝え、状態に応じた適切な指示を仰ぐ体制を整えているほか、薬剤師の定期訪問の際には直接服薬に関する助言を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所に非常勤看護師を配置しており24時間連絡体制を確保して健康管理や医療チェックの支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は退院に向けた調整や必要な援助について病院関係者と情報交換を行い、ご本人の援助が受けれるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の「重度化した場合における対応に関する指針」に基づき、ご本人やご家族の希望や意見を尊重しながら、医師・看護師・職員で連携して支援するように努めている。しかし、事業所で出来る限界についても説明し、必要な場合は医師の判断によって援助を行っている。	重度化した場合の指針に基づき、契約時に利用者及び家族と話し合い、希望を確認しながら対応方針を確認している。 また、今後看取りによる支援を望む場合は、利用者及び家族の意見を尊重し、医師や看護師、職員で検討しながら支援していく体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し、年2回スタッフが交互に普通救急講習をうけている。また、採用時研修に急変時や事故発生時に速やかに、適切に対応できるように繰り返しの訓練や研修を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的開催している。また、運営推進会議で提案・企画し地域の方にも参加していただいている。地域の方にも、非常口から避難場所への誘導、見守り等を担当していただいている。	防災訓練計画に基づき、夏季・冬季・夜間を想定した避難訓練を年3回実施しており、前回評価で課題としていた近隣住民の参加が得られ、非常口からの避難誘導の役割を依頼している。 また、緊急連絡網に近隣住民2名が加わり、避難時間を短縮するための自動通報装置の設置、スプリンクラーの設置も予定するなど緊急災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、ご本人の能力に応じた言葉かけや対応を行うようにしている。記録等も施錠できるところに保管している。	起床や就寝は自由で、介護度の高い方でも寝たきりにならないよう座位を保つよう支援し、トイレ誘導時には耳元で声をかけるなど、自尊心に配慮した対応に努めている。また、利用者の身だしなみにも気を配り、行事や外出時には化粧や髪の手入れを行い、外出先で知人に会った際は親族のふりをし、事業所の利用を伏せるなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々人が自己決定ができるよう、言葉遣いや接しかたを考え、能力に合わせた個別の関わりを多く持つことに努めているが、職員の力量にも差があり全員に十分にできているとはいいがたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合やペースで業務を進めて行くことがないように努めている。また個々人の希望も取り入れ業務変更も行っている。しかし全員に対してできているとはいいがたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ご家族にも協力をいただき衣類や化粧品などの準備をお願いしている。理美容院には送迎の支援をしている。また、行事などで外出の際は化粧をするなどの声かけをして楽しんでいただけるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事準備をし、食事をとっており、片付けも行っている。日ごろの会話や摂取状況から好みをしり一人一人の食事にとり入れる工夫をしている。	職員と同様に何でも手伝える方や、座ったままで下ごしらえする方など、その方の力を生かしており、食べ残しのある方には隣で声かけし、栄養摂取状況等や好みの把握に努め、定期的に栄養士のチェックを受けて栄養バランスに気を配っている。また、食事は手づくりにこだわり、畑で採れた旬の野菜を使用したり、カウンターを利用してバイキングを取り入れるなど、食事を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量の把握はできている。また一日を通して必要量が摂取できるように取り組みをしている。栄養バランスについて外部講師を招き、勉強会を行ったり献立についてもアドバイスをいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝時に、本人の状態に合わせて、歯磨きや義歯洗浄を支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々のパターンを確認し、声がけや誘導をし気持ちよく排泄できるように声がけや誘導をしている。また不安や羞恥心、プライバシーにも配慮した援助を心がけている。	一人ひとりの排泄チェック表により排泄パターンを確認し、重度の方でもリハビリパンツで対応し、できる限りトイレでの排泄を支援している。 また、薬に頼らない自然排便をめざし、繊維質の多い食材摂取や朝の牛乳等で排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事、排泄、活動状況をチェックし、食事、水分量、運動など自然排便を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、夜間も含めて入浴可能であり、健康状態を確認しながら見極めをしている。その方に必要な支援をしている。また安全な入浴ができるよう浴槽台、浴槽手すりを設置し介助、見守りを行っている。	毎日や夜間でも希望に応じて入浴できるよう支援しており、入浴の可否は利用者の健康状態や習慣、希望に任せている。 また、同性介助について意思確認し、羞恥心に配慮した対応を心がけ、馴染みの温泉にも出かけるなど入浴を楽しめるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活のペースを大切に、その時の状況で好きな場所で休息したり快適に眠れるように室温、掛け物の調整など支援ができています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師と連携をとり服薬支援に努めている。また処方薬に追加など変更があったときは、連絡なノートに記載し閲覧し職員全員が把握できるよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・職歴などから一人ひとりの力を活かした、役割り、楽しみごと、気晴らし方法を考え、職員や他の利用者さんと共に行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	散歩・買い物・畑作業など出来るだけ希望にそって戸外に出れるよう支援しているが利用者の身体的理由により十分に希望に副えない場合には外気浴などを声かけしている。	外出はリスクが大きいことを理解しながらも、利用者の希望に沿って散歩や買い物、畑仕事など外出の意義を見出しながら支援している。 また、重度の方でも車イスで共に出かけ、冬でもドライブなどで季節を感じてもらうよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはGH管理であるが本人、家族の理解を得て許容範囲内の金額で自己管理している利用者さんもいらっしゃるの、声かけ、見守りなどの、支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望に沿い、電話や手紙のやり取りの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ家庭的な雰囲気な環境の中で心地良く暮らしていただけるよう配慮している。共有空間にはテレビ・ソファを置き会話がはずむような場所として活用し、四季を感じていただけるよう、七夕・ひな祭り・クリスマス・名月などを演出している。	共有空間にはテレビやソファ、畳のスペースなどがあり、仏壇を置いて利用者が毎日拝むなど落ち着いた環境をつくっている。 また、壁には職員の手作りカレンダーや季節感のある装飾、思い出の写真を飾り、ドアノブ等の消毒を徹底して快適な環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	共有空間がオープンスペースではあるが、ソファや椅子を配置し自由にくつろげるようにしている。また、利用者同士の関係性や状態に応じた環境作りを心掛け、確保できている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には住み慣れた環境を目指し、できるだけ自宅で使い慣れた食器・家具などを持ってきていただけるように説明しているが個人差がある。	利用者の好みや使い慣れた物を持ち込み、住み慣れた生活空間づくりに努めている。 また、毎日の掃除や洗濯に気を配り、タンスの上なども丁寧に掃除することで清潔に気持ちよく生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の残存能力を最大に活かして生活できるよう、必要に応じて手すり・浴槽台・椅子等を提供している。		